



筑波大学
University of Tsukuba

Tsukuba Communications

vol.4

2 対談 **スポーツを通して若者の育成を考える**
福井烈氏 × 阿部生雄 理事

(日本テニス協会常務理事)

8 特集 **「著作権」**

10 学内組織紹介 **次世代医療研究開発・教育統合センター**

12 附属学校紹介 **附属視覚特別支援学校**

14 TSUKUBA SPORTS **女子ハンドボール部**

16 TSUKUBA ART & CULTURE **THK筑波放送協会**

18 TOPICS **締結／交流／評価／受賞**

22 羽ばたくOB&OG **三浦章広氏**

24 **リレーエッセイ**

26 **新聞記事掲載一覧**

27 **イベントカレンダー**

対談

スポーツを通して 若者の育成を考える

福井 烈氏 日本テニス協会常務理事 × 阿部 生雄 理事



練習の質と量に裏付けられた強さ

阿部 本日は、お忙しい中、本当にありがとうございます。この対談は、筑波大学でテニスの指導をしている山田幸雄教授から、柳川高校（福岡県）の後輩であった福井さんをご紹介いただき、実現いたしました。「スポーツを通して若者の育成を考える」をテーマにお話を伺います。どうぞよろしくお願い致します。まず、福井さんがテニスを始めたきっかけをお聞かせ下さい。

福井 テニスを始めたのは11歳で、小学校5年生のときでした。きっかけは、7歳年上の兄がテニスをしていたことでした。当時、私は小学校の野球部に所属していましたが、たまたま練習がないときに、兄のテニスを見に行き、面白そうだと思ったのです。兄はテニスを始めたばかりでしたので、あまりうまくはありませんでした。それで、自分ならもっと上手にテニスができると感じたことを覚えています。テニスの第一印象は悪くなかったから、野球の練習がないときは、テニスコートに遊びに行くようになりました。

阿部 中学校ではすでに本格的にテニスをしていたということですね。硬式と軟式、どちらをやっていたのでしょうか？

福井 初めから硬式テニスです。というのも、土地柄というのがありました。私が住んでいた北九州の門司（もじ）は港町で、外国の船がたくさん入ってきました。テニスコートもたくさんあり、テニスが外国の人々との交流の場の1つになっていたんですね。門司には硬式テニスの元全日本チャンピオンの女性もいて、硬式テニスがとても盛んでした。

阿部 そうですか。環境からかなり違っていたんですね。柳川高校に進学し、インターハイ3連覇はもちろん、169連勝という記録を達成されましたが、記録を達成できた要因は何だったのでしょうか？

福井 169連勝の中にはシングルスだけでなく、ダブルスや団体戦も含まれていますので、自分の力だけでなく、パートナーや仲間にも恵まれていたと言えますね。もちろん、日々、一生懸命練習した成果もあったと思います。高校時代は負けることが怖くありませんでしたし、負ける怖さはプロになるまで分かりませんでした。

阿部 福井さんをはじめ、日本テニス界のトッププレーヤーを多数輩出してきた、柳川高校の強さの秘訣（ひけつ）について、お聞かせ下さい。

福井 柳川高校が強かったのは、練習量の多さにあると思います。平日は朝6時から7時半まで、放課後は日没まで、夕食後は体育館で夜11時まで練習していましたの

で、1日の練習時間は約7時間。屋外テニスコートは7面あって、部員は20人ほどでしたから、1面に4人ずつ入ると全員が一度にコートで絶えずボールを打つ練習ができました。他校だと打つ順番を待つことがありますが、柳川高ではそのようなことはありませんでした。練習時間だけでみれば他校の3倍くらいですが、練習内容も、ボールを常に打ち続けているわけですから、練習量は他校の6倍くらいあったと思います。ということは、高校3年間で、他校の18年分の練習をしてきたことになります。それだけの練習を行っていたのですから、負けないという裏付けはしっかりとあったわけです。たまたま勝ったのではなく、本当に鍛えられてきた結果だったわけです。

阿部 そのようなハードな練習に耐えることができたモチベーションは何でしたか。

福井 私たちのころは部員が1学年7人ほどで、互いに競い合うライバルであり、自分を高めてくれる素晴らしい仲間でした。そのような仲間がいたので、厳しい練習にも耐えることができたのだと思います。

阿部 高校卒業後、筑波大学の比較文化学類に進学されましたが、体育専門学群ではなく、比較文化学類を選んだのはなぜでしょうか。これからは、例えば経営学を学びながら、スポーツで抜きん出ていこうとする人が出てほしいと思いますし、体育学部のない私立の大学にはそのような人も結構いますよね。ですから、福井さんの進路選択にはとても関心があります。

福井 一番の理由は、テニスを職業にする気持ちがこの時点ではなかったからです。当時はテニスプロというのは、あまりポピュラーではなく、本当に特別な人たちのものであって、そこに自分が入っていける自信がありませんでした。将来を考え、いろいろなことを勉強しなければならなかったことが、大きかったと思います。しかし、人生に明らかな目標があったわけではなく、選択肢を多く持てる進路選択をしました。それが途中で大きく変わってしまったのですが、アメリカには何らかの資格を持っているプロスポーツ選手はたく



さんいます。阿部先生が言われたように、これからは様々な選択肢を持つスポーツ選手が増えていくと思いますし、そうなればスポーツ全体のステータスも上がるような気がします。

阿部 本学の前身である東京教育大学のテニス部には、体育学科だけでなく、文学部、理学部、農学部の学生も多くいました。ですから、体育教師やテニス一筋でやっていくという人だけではなく、様々なことに興味を持つ人たちがプレーするわけですから、テニスが非常に豊かになりますよね。そこに、いろいろな選択肢を持つ人がスポーツを行うことの良さがあると思います。プロスポーツ選手になるのが体育を専攻していた学生だけではなく、それ以外を専攻してきた学生もプロスポーツ選手になることを選択



ふくい つかし
福井 烈 日本テニス協会常務理事 強化本部長、JOC理事

1957年 福岡県生まれ

柳川商業高校（現・柳川高校）時代はインターハイ3連覇を含む169連勝で無敗

全日本テニス選手権大会シングルス優勝7回（史上最多）

全日本室内テニス選手権大会シングルス優勝6回

10年連続デビスカップ日本代表（1978年-1987年）

9年連続JOPランキング1位（1979年-1987年）

1981年-1983年、1985年日本プロテニス協会MVP

バルセロナ五輪、シドニー五輪、日本代表監督等

肢の一つに持っていくことが、本当の意味でスポーツが豊かになることではないかと思えます。

福井 私も全くその通りだと思います。外国によく行くようになり、外国ではスポーツが文化として捉えられていると感じるようになりました。例えばウインブルドンの一万人の観客の中には、年配の方が多くいます。日本のスポーツではあまり考えられないことです。日本で言えば、伝統芸能を見るような感覚で、年配の人がテニスを見に行くのです。彼らはゲームのスピードについていくことができなくても、ゲームをする選手を見るだけで満足している。そういうことが定着しているので、ゲームが落ち着いた高尚な雰囲気となっています。これが、これからの日本のスポーツが目指すべきものではないかと思えますし、

そのためにもスポーツの専門家だけではなく、それ以外の様々な分野の人たちにスポーツの良さを知ってもらうことが重要だと思います。そうすれば、これまで小さな世界に留まっていたスポーツの情報を、様々な分野に発信することができますからね。

アメリカで学んだ長所を伸ばすことの重要性

阿部 福井さんは筑波大学を中退し、アメリカに留学しましたが、それはスポーツ留学の先駆けだと思います。アメリカ留学が福井さんのテニスや生き方にどのような意味を持ったのでしょうか？

福井 高校時代に海外遠征をして、外国のいろいろなものに接するうちに、海外でテニスをしたいというよりは、海外で生活がしたいと思うようになりました。私は高校で良い成績を残すことができ、日本テニス協会にはアメリカから良い選手がいたらスカラシップを用意しているという情報が来ていましたので、私は留学することが出来ました。留学先は、ロズウェルにある陸軍の士官学校でした。なぜそこを選んだのかというと、2年制のジュニアカレッジだったからです。語学力のない

私が4年制の大学に入ることはまず無理でした。名門校に入るには、ジュニアカレッジで語学を勉強し、かつテニスで良い成績を出し編入することが一番の近道でした。全寮制でテニスに集中できる環境があったことも大きかったです。留学でまず感じたのは、個性を伸ばす指導が行われていることでした。日本の、短所を修正する指導法と違い、アメリカの指導法は長所を伸ばそうとするものでした。私は背が低く、攻撃的なテニスが苦手だったので、それを学ぼうと思い留学したのですが、留学先で指導者から「あなたが攻撃的なテニスをして中途半端で終わります。もっとディフェンシブなテニスをし、誰にも負けないディフェンシブなテニスができるようになりなさい。相手をイライラさせるくらい、とにかく走り回り、しつこいテニスをしなさい」と言われました。そのような指導に驚きながら、自分の長所をより伸ばすトレーニングをするようになりました。

阿部 それは驚きました。私が研究している人物に武田千代三郎という人がいます。彼は東京帝国大学の法科を出て、各県知事を歴任し、その後、大日本体育協会の副会長を務めた人物ですが、彼の好んだ哲学は、中国の孫子の兵法書の中に出てくる「不可勝」です。これは、「勝つべからざる」と読みます。この言葉の意味は、福井さんがアメリカで指導者から言われたことと全く同じです。つまり、相手に勝つことを考える前に、まず自分に一体何ができるのかを考え、自分が他人に絶対負けないものを見つけること。これを磨いていけば、おのずと相手に必ず勝てる、ということを武田千代三郎は唱えていました。彼の主張と同じ事を、福井さんから聞けるとは思ってもいませんでした。

福井 言われたのは19歳の時でした。

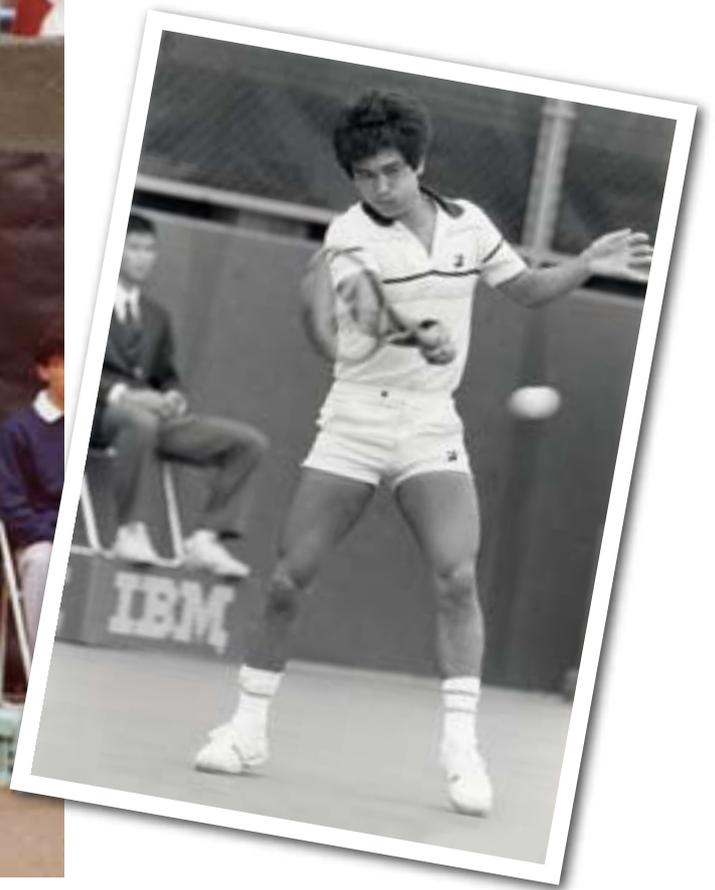
阿部 それは良い教えに巡りあったということですね。本当に素晴らしいことです。

福井 長所を伸ばすように言わ

れなければ、パワーテニスが叫ばれた時代でしたから、私もその流れに乗っていたかもしれません。今振り返ってみても、自分のような体格でパワーテニスをして、他の選手に対抗できなかったと思いますから、指導者の言葉が自分に合ったテニスへ導いてくれたのだと思います。それと、もう一つ留学して驚いたことは、アメリカではその当時でもトレーニング施設が充実していたことです。日本では高級スポーツクラブにしかないようなトレーニング器具が、留学した学校にはたくさんあったので、器具を使って脚力などを鍛えることができました。良い教えだけでなく、優れたトレーニング施設にも若いうちに巡りあえたことは自分にとって良かったと思います。



あべ いくお
阿部 生雄 理事兼附属学校教育局教育長
1984年 筑波大学体育科学系助教授
1996年 " " 教授
2001年 IOC付属オリンピック・ミュージアム・
リサーチ・カンシル委員（～2004年）
2003年 筑波大学附属中学校校長（～2008年）
2009年 " 理事兼附属学校教育局教育長



阿部 福井さんは20歳で全日本選手権を制覇し、シングルス優勝7回、9年連続全日本ランキング1位、10年連続デビスカップ日本代表という非常に素晴らしい成績を築いてこられました。日本のトップ選手として活動していく中で、精神面や体力面の管理はどうされていきましたか？

福井 選手生活を長く続けることができたのは、けがが少なかったからだと思います。身体のケアというよりは、睡眠や食事は非常に気を配っていました。何かを犠牲にしなければ、身体の調子を維持できないと考えていました。では何を犠牲にしたのかといいますと、“楽しいこと”です。楽しいことを覚えると、人間というのは弱いものですからコントロールが難しくなります。私は幸いなことに酒が全く飲めませんでした。飲みたいと思う時もありましたが、体が受け付けません。酒を飲む機会がほとんどなかったのも、楽しいことを覚えてしまうような所にそれほど行かなくて済んだ訳です。今は、酒が飲めなくて大変困っていますが、当時は飲めなかったがゆえに、テニスのことだけを考え、どうしたら勝てるのか、どうしたら強くなれるのかを追い求めていくことができました。優勝回数が何回であるとか、何年連続ランキング1位であるということも思ってしまうと、1位というのはそれより上がないわけですから、そう思った瞬間に後退していきます。常に、より高いところを目指していかなければなりません。私の場合、世界では全く駄目でしたので、世界の

選手に勝つためにはどうすれば良いのか常に考えていました。自分の成績に満足した時点で終わりですから、優勝カップなどは一切飾りませんでした。それは過去のものであり、今現在のものではないわけです。そうして常に高みを目指してきましたが、33歳の時にふと、自分がベストの状態でも戦ったとしても自分はもう勝てないと思い、引退を決意しました。

阿部 自分というものを最大限に理解し、納得した上での引退だったということですね。

福井 引退に関してはそうですね。ただ過程においては、松岡修造氏のように外国で長い間転戦したり、留学をもっと長くすれば良かったかとも思います。今でも、自分が選ばなかった方を選んでいたらどうなっていたかと考えますが、今の選手たちが海外に行くときには、自分の経験を踏まえた上で、良いアドバイスをしていきたいと思っています。

スポーツで日本を元気に

阿部 福井さんは現在、指導する立場にあるわけですが、指導者として心がけていること、また指導の難しさについてお聞かせください。

福井 選手の時と比べると、指導は何倍も難しいです。選手は結果だけを追い求めれば良いのですが、指導者には、結果だけでなく、選手の人生をも預かる責任があるので、ただ勝てば良いというわけではありません。選

手個人の人間の幅を広げなければならないですし、そのためには自分の幅を広げなければならないですから、情報をたくさん得ることの必要性を痛感しています。それにはスポーツの情報だけでなく、一般常識なども含まれます。長い間スポーツの世界にいと、やや一般常識に欠ける部分もありますから、社会情勢や世界の動向などある程度の知識は持っていなければいけないと思います。様々な情報を得た上で、それらをどのようにテニスへ落とし込んでいけるのかを試行錯誤しながら考えています。また、選手の信頼を得るには長い時間がかかります。信頼を失うのは一瞬ですから、頭ではなく細胞レベルで分かっているなければなりません。指導を続けている限り、一生勉強だと思います。私は指導者としてはまだまだですから、アンテナをたくさん張り巡らせ、選手が何を考え、何を言いたいのかを理解するように努めています。

阿部 常に勉強を心掛けておられるようで、尊敬します。福井さんは今年4月から日本オリンピック委員会の理事に就任されましたが、今後、日本のスポーツがどのような方向に向かっていくのか、またオリンピック・ムーブメントにどのように寄与していくのか、これらについてご意見をお聞かせください。

福井 2016年のオリンピックが東京で開催されることを願っています。それが決定すれば、2016年までスポーツがいろいろな話題の中心になります。スポーツ施設の面でも大きな変化があると思います。厳しい時代の今だからこそ、スポーツをと思うのです。スポーツは身体を元気にし、気持ちを明るくし、何事にも耐えうる精神力を養えるような大きな力を持つものだと、私は信じています。総合的に考えると、スポーツによって国が元気になるわけです。このようなことを私は全国で言うて

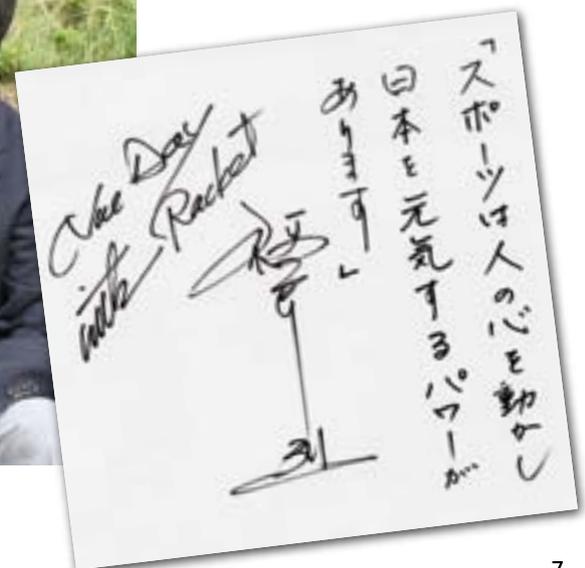
回っています。また、スポーツには厳然たるルールがありますよね。今の世の中ではルールがなかなか守られていませんが、スポーツでは子どもたちに世の中にはルールがあり、守らなければ勝負にならないということを体感させることができます。ルールの中でどうするべきかを考えることを教えることができます。ですから、スポーツには教育的な価値が大いにあると思います。教育面や健康面、精神面でのスポーツの良さや素晴らしさも伝えていきたいですね。

阿部 立派な教育論をお持ちで感服いたしました。最後に、これからテニスを始めようとする人や初心者、そして筑波大学の学生たちへメッセージをお願いします。

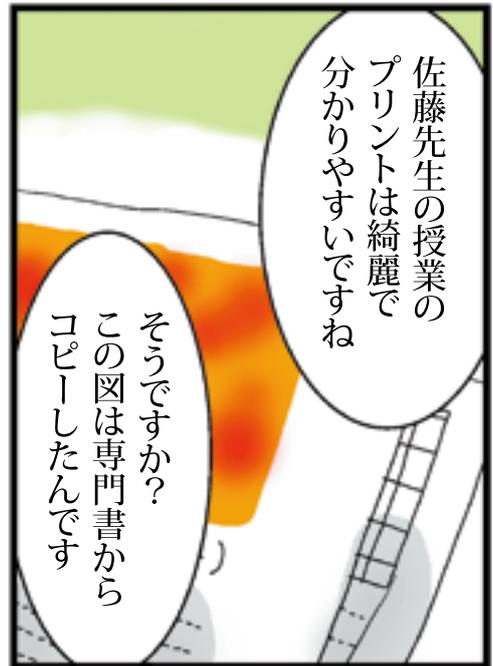
福井 生涯スポーツや競技スポーツ、それぞれに楽しみ方があります。何らかの形でスポーツに触れ、汗をかき、仲間を増やしてもらいたいです。スポーツを通してできた仲間は、生きていく上で大きな財産になります。うまい下手は別問題で、とにかくスポーツに触れ、それを一生懸命行い、楽しく取り組んでほしいと思います。また、ある組織を運営していく中で一番大事なことは、リーダーシップをとる人が、謙虚で気配りのできる人であることです。このようなキーパーソンが日本全国にたくさん散らばれば、ものすごく大きなムーブメントを生み出していけるはずですよ。筑波大学の学生には、組織の中でリーダーシップをとるような人になってほしいと思います。

阿部 大変心強いエールをいただきまして、ありがとうございます。福井さんのこれからの益々のご活躍を祈っております。また、ウインブルドンの解説も楽しみにしております。本日はどうもありがとうございました。

福井 こちらこそ、どうもありがとうございました。



著作権について考えてみよう!!



大学の教育研究の現場では、他人の著作物を使用することが日常的に行われています。しかし、実は、その使用方法がルール違反だったりすることがあるかもしれません。そこで、今回は教育研究の現場での著作物の使用について、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

著作権法第35条によれば、「①授業を担当、教育する者及び授業を受ける者が、②授業の過程において使用することを目的として、③必要と認められる限度で、公表された著作物を複製する」ことができますと定められています。

しかし、もし授業で使用する目的であったとしても、「著作物の種類及び用途並びにその複製の部数及び様態に照らし著作権者の利益を不当に害することとなる場合」には複製することは認められないことに注意が必要です。

では、「著作権者の利益を不当に害する」というのはどのような場合でしょうか？

左ページの例ですと、市販の問題集を作った著作権者（業者）は、生徒全員がその問題集をそれぞれに購入し、教材として授業で使用することを前提に販売しています。こうした用途で作られた著作物を、一部だけ購入し、生徒の人数分複製して授業で使用することは、著作権者の利益を不当に侵害することとなります。

また、複製する部数についても注意が必要です。2004年3月に示された「学校その他の教育機関における著作物の複製に関する著作権法第35条ガイドライン」では、1クラスの人数と授業の担当者をあわせた数（おおむね50人程度）が限度とされています。

鈴木先生のように一学年全体に著作物を複製して使用する場合は、仮に一学年5クラスとしますと、50人×5クラス=250、つまり250部複製することになります。このような大部数の複製は、著作権者の利益を不当に侵害する可能性があります。これは、大学の講義における複製でも同様です。大教室で200人以上の学生を対象に行う講義において、学生全員に著作物の複製をして配布することは、著作権者の利益を不当に侵害するおそれがあると考えられます。



このように考えていくと、では「51部では侵害になるのか?」「問題集の全部ではなく一頁だけでは?」といった疑問が浮かぶかもしれません。しかし、どの程度の複製が不当な利益侵害となるのかという判断は、使用する著作物及びその著作権者の考えによって異なるものであり、法律によって一律に線引きをすることはできません。

著作物を使用するには、著作権者の利益を侵害しないかどうかを慎重に考え、著作権法第35条で認められたケースにあたらぬ可能性があれば、他人の著作物を利用する場合の原則、「事前に著作権者に許諾を得る」という手段をとることが大切なのです。

〔総務部 法務室〕

次世代医療研究開発・教育統合センター

次世代医療研究開発・教育統合センター(略称 CREILセンター <http://creil.md.tsukuba.ac.jp>)は、本学医学部門が第1期中期計画に掲げた次世代の医学研究、教育、診療の新しい姿を実現するための組織として、大学西地区の医学エリア内に2006年10月に設立されました。落合直之センター長の下、13人の教員と8人の職員が在籍し、学内外から寄せられる新しい治療法や生体材料のシーズ(技術の「種」)の安全性や有効性を確かめるための臨床研究(動物実験を終えた後、多くの患者さんへの適用に先立って被験者さんの協力を得て進める試験研究)の推進を支援しています。さらに、センターは学内外の医療人向けに新しい診断、治療技術のトレーニングの場を提供しています。



落合直之センター長

■より良い医療の提供のために

筑波大学では、「明日の医療・医学を創る力に」をスローガンとして附属病院再開発が進められています。当センターの活動は、これを達成するための具体的な方策の一つです。当センターは「社会と地域へのより良い医療の提供」のために、筑波大学大学院人間総合科学研究科医学系専攻群と大学附属病院との連携により形成されましたが、さらに筑波研究学園都市におけるいくつもの研究機関や近隣の病院群との連携も積極的に進めています。

当センターでは、社会的ニーズが非常に高い「新しい医療技術の開発、医療製品の産業化、予防医学の普及を目的とした患者治療立脚型の臨床研究」が倫理的・科学的に妥当で、かつスムーズに実行されるように支援します。そのために必要な様々な職種、具体的にはプロジェクトマネージャー、臨床研究コーディネーター、データセンターマネージャー、医療統計専門家などの多様なスペシャリストによる支援体制を整備・運用すると共に、さらに大学院教育と連携して今、社会的ニーズが高まっているこうした専門家を養成する体制を整えています。



臨床研究コーディネーターによる支援の様子

■センターの主な3つの活動

このような使命を達成するために当センターが実施している具体的な活動項目は以下の3点に集約されます。

①臨床研究の支援

従来のトランスレーショナルリサーチ(橋渡し研究)から脱皮して患者ニーズに基づいた臨床研究を指向する研究を支援します。

現在のところ、筑波大学医学部門発の先進的臨床研究シーズの支援が中心となっていますが、システム情報工学研究科発のシーズ(ロボットの医療応用など)や、学会主導の全国規模の臨床研究など学外発のシーズの支援も実施しています。



データセンターマネージャー打ち合わせの様子

スで、東京ディズニーランドと東京ディズニーシーを合わせた面積の約2.4倍の広さを誇ります。広いキャンパスには様々な組織や施設が、どのような目的で設置され、どのようなことをしているのかなど、各号で紹介していきます。



臨床研究例(遺伝子治療)



内視鏡技術教育の様子



内視鏡トレーニングの様子

② 臨床研究に関わるエキスパートの育成床研究の支援

OJT(On-the-Job Training)教育を全面的に取り入れ、こうした研究を推進する「すぐに使える」人材を教育し、社会に供給します。

講義中心の大学院教育だけでは「すぐに使える」人材を育成することは困難です。人間総合科学研究科フロンティア医科学専攻、疾患制御医学専攻、生命システム医学専攻と連携して、倫理的・科学的に妥当な臨床研究を推進する人材を育成するための大学院教育として、トレーニングセミナーの開催に加えて、①で支援している実際のプロジェクトに直接関与してもらい、身を持って経験することのできる、実効的な教育(OJT教育)を進めています。

③ 新しい医療技術の教育・スキルアップの場の提供

医療技術ラボラトリーを活動の拠点として新しい診断、治療技術、あるいはすでに一部では治療に使用されているものの、未だ広く普及していない医療技術の教育やスキルアップの場を提供します。

内視鏡手術など、患者さんにとって負担の軽い手術は、

逆に、手術する側にとっては大きな技術的負担となる場合があります。そのため、医師がしっかりとトレーニングを積むことが大切で、それにより患者さんと医師双方の負担を軽減することが可能となります。

また、こうした教育活動を通じて一度、臨床現場を離れた医療人の職場復帰も支援します。さらにセンターではこうした新しい技術をより良いものにするために、安全で精度の高い検査法、手術法の開発も支援しています。



内視鏡トレーニングボックス

「感性を生かし自立を目指す教育」 筑波大学附属視覚特別支



130年にわたる視覚教育のナショナルセンター

地下鉄有楽町線「護国寺」駅から徒歩約10分のところに附属視覚特別支援学校があります。現在、幼稚部から専攻科まで202人が学ぶ、全国の盲学校で最も生徒数の多い学校であり、内127人が寄宿舎で生活しています。教職員は108人（寄宿舎指導員含む）です。

本校の歴史は、宣教師のボルシャルトらが訓盲所設立を考え、「楽善会」を発足させた1875年にさかのぼります。同会が、1879年に訓盲院の校舎を完成させ、翌年2月に盲生2人が入学し、授業が始まりました。その後、文部省（当時）の直轄学校等を経て、1978年に筑波大学附属盲学校、2007年からは現在の校名となり、我が国唯一の国立盲学校として、明治以来130年にわたり、ナショナルセンターの役割を果たしています。

また、近年はアジア、アフリカ等からの留学生もおり、世界的な視覚障害教育にも貢献しています。

さまざまな視覚障害

盲学校は、「目の見えない子どもたち」が通う学校と思われていますが、その障害の程度や障害の発生時期など千差万別で、「目がまったく見えない全盲の子ども」と「見えにくい弱視の子ども」がいます。弱視の見え方もそれぞれで、小さい物が分かりにくかったり、動いているものが見えなかったり、目の中心が見えず、周辺でしか見えないなど、障害もさまざまです。また、他の障害や病気を併せ持つ子どもたちも、近年多くなっています。

黒板を使わない授業

盲学校の教育は、一般の小・中学校、高等学校と指導内容は変わりませんし、教科書の内容も同じです。しかし、視覚に障害を持つ子どもたちには、黒板に文字を書き説明をすれば理解できるという訳にはいきません。

漢字の同音異義語や同訓異字語、数学の図形、社会科の図表や地図、理科の実験、英語のスペル、体育、美術、音楽の実技など、それぞれの分野の先生が、視覚に頼らず説明できる工夫を施しています。

例えば、数学の平行四辺形は、上下の辺が平行になるように置かれたものをイメージするか、左右の辺が平行になるように置かれたものをイメージするかで、お互いの考え方が伝わらないことがあるので、基本のイメージを共有する必要があります。中学部では、基本となる平行四辺形の触察用の図を触りながらクラス全員で左上の頂点から反時計回りにA、B、C、D、そしてAと辺に沿って手を動かして、図形の形を確認することを通して、初めて、一つのイメージを共有させ、言葉によって説明を行います。

自立できる生徒を育てます

廣瀬豊副校長は、「本校の中学部以上は、北は北海道から南は沖縄まで全国から来ており、ほとんどの生徒が寄宿舎で共同生活をしています。寄宿舎では、寄宿舎指導員を中心に歩行指導、マナー教室をはじめ、調理実習もガスレンジを使用し、炒め物や煮物などを作っています。また、高等部普通科の卒業生7割以上が一般の大学に進学し、大学卒業後は、公務員、教員、情報関連等の一般企業で活躍しています。卒業生には、東京大学の教授やパラリンピックのメダリストもいます」と話しています。

いずれもそれぞれの分野で我が国の教育をリードしています。

教育130年の歩みを礎にさらなる専門性を目指す、筑波大学附属視覚特別支援学校を紹介します。

援学校



◆理科の授業

毎年4月、中学部の1年生は校内を散策しながら、木の新芽の様子や雑草と言われている植物を、五感をフルに使って観察しています。

先生:「この葉っぱを摘んで、においを嗅いでごらん」

生徒:「わあ、なんか臭い」「あ、ほんとだ、臭い」

先生:「どんなにおい?」

生徒:「嫌なにおいではないな」

先生:「これに似ているにおいて何だろう?」

生徒:「なんか野菜系のにおい」

「あ、これ、キュウリのにおいに似てる」

「キュウリって言うか、スイカの皮だよ」

先生:「いい鼻をしているね。実はこれ、

キュウリグサって名前がついているんだよ」



この時、「キュウリグサの観察をしましょう。葉のにおいは、キュウリのにおいに似ています」と最初に解説してしまってから生徒に観察させたのでは、面白さが半減してしまい、確認のための観察になってしまいます。

◆部活動

本校は、視覚障害者の学校ですが、スポーツが盛んです。特に、野球部は毎年、全国大会で上位に入賞しています。

盲人野球は、基本ルールはソフトボールや野球と同じですが、1チーム10人で行い、その中に全盲のプレーヤーが4人以上いなくてはなりません。最大の特徴は、ハンドボール(3号球)を使用してゲームを行うこと。投手(全盲)が捕手(弱視)の叩く手の音を頼りにグラウンドにボールを転がし、打者は転がる音だけを頼りにバットでボールを打ちます。投手も上級者になるとスピードボール、カーブ、シュートも操ります。全盲のプレーヤーが打球音だけを頼りにキャッチする姿は、目の見えるものにとってはまさにミラクルな光景です。



第4回 女子ハンドボール部

一致団結し、連覇へ発進!

「動きが遅い!」「もっと入り込んで!」——女子ハンドボールコートには毎日、監督の檄が響き渡る。

「女子ハンドボール部」(水上一監督、河村レイ子部長)は数々の大会で優勝を誇る、大学ハンドボール界における伝統ある強豪チームだ。昨年は秋季リーグとインカレを制覇、続く全日本選手権では、実業団を相手にベスト4まで勝ち進む実力を見せた。

現在、部員は22人。主力選手が卒業し、新体制で挑んだ春季リーグは、最終戦で最大のライバル、東京女子体育大に、わずか1点差で敗れ涙をのんだ。チームは秋季リーグに雪辱を誓い、日々練習に励んでいる。

チームの武器はスピードとディフェンス。「確かなディフェンス力が備われば、どんな試合展開でも必ずチャンスを生む。それと、うちは高さがない分、走り負けない。1試合平均6~7kmは走るから、フットワークや持久力をつけることが必要」と水上監督。練習中、選手



たちは水分補給時以外、ほとんど足を止めることなく、コート狭しと走り回る。

水上監督が「ゲーム展開の判断能力に優れた選手」と評価するセンターの石野実加子選手(体専3年)がスピードを生かし、得意のカットインプレーや



このコーナーは、前身の師範学校から135年以上の歴史を有し、スポーツ分野において、オリンピックの金メダリストを始めとし、優秀な選手を多数輩出している本学の体育会を紹介します。

主な競技成績及び今後の試合日程を紹介いたしますので、是非、各フィールドに足を運び、熱き声援を送ってください。

【筑波大学体育会】ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~taikukai/>

陸上部 [記録・日程]

- ヤマザキ国際GP陸上大阪大会2009
- 【男子200m】6位 安孫子充裕(体専3年) 20秒48※自己新※日本歴代8位
- 第88回関東学生陸上競技対校選手権大会
- 【男子】優勝 ※22年ぶり12回目
- 【男子100m】優勝 安孫子充裕(体専3年) 10秒30
- 【男子200m】優勝 安孫子充裕(同) 20秒68
- 【男子1600リレー】優勝 佐藤慧太郎(同1年)、安孫子充裕(同3年)、田中暢人(同)、石塚祐輔(同4年) 3分5秒83
- 【男子やり投げ】優勝 山田啓太(同4年) 73m67
- 【女子】優勝 ※17年連続19回目
- 【女子走り幅跳び】優勝 中野瞳(同1年) 5m95
- 【女子三段跳び】優勝 大坂阿玖里(同) 12m65、2位 前田和香(同)
- 【女子やり投げ】優勝 宮本理陽子(同3年) 51m51
- 【女子砲丸投げ】優勝 蛭田伶菜(同3年) 14m56
- 【女子400mリレー】優勝 中野瞳(同1年)、岡部奈緒(同3年)、佐野布由実(同2年)、立山紀恵(同1年) 45秒12
- 【女子円盤投げ】優勝 高橋亜弓(同2年) 45m91
- 【女子7種競技】優勝 竹原史恵(同4年) 5164点
- 2009日本学生陸上競技個人選手権大会
- 【女子三段跳び】優勝 前田和香(同1年) 12m82※大会新記録、2位 大坂阿玖里(同) 12m61※大会新記録
- 【女子砲丸投げ】優勝 蛭田伶菜(同3年) 14m25
- 【女子円盤投げ】優勝 日下望美(同) 47m40
- 天皇賜杯 第78回日本学生陸上競技対校選手権大会
9/4~6 国立競技場

蹴球部 [記録・日程]

- 総理大臣杯 全日本大学トーナメント関東代表決定戦
☆出場決定 2年ぶり20回目
- 第33回 総理大臣杯 全日本大学サッカートーナメント
8/1~7 大阪長居スタジアム他

バスケットボール部 [記録・日程]

- 第43回関東大学女子バスケットボール選手権大会 2位
敢闘賞=大鷹さおり(体専4年) 得点王、ベスト8賞=福士佳恵(同3年)
- 第85回関東大学バスケットボールリーグ戦
9/19~11/1 代々木第二体育館他

弓道部 [記録・日程]

- 第39回全関東学生弓道選手権大会
【女子個人戦】優勝 白石唯(体専3年) ※2年連続
- 関東学生弓道選手権大会
9/14~(予定)

フェイントで揺さぶりをかけ、ゲームメーカーとして攻撃の起点を作れば、エースの作内杏那選手(体専3年)が176cmの長身と強肩でダイナミックなシュートを決める。1年からレギュラーで活躍する2人は互いに信頼し合い、息の合ったコンビネーションプレーを見せる。

今年加入した左45°ポジションの川俣ゆかり選手(体専1年)が、相手ディフェンスの上から放つロングシュートもチームの得点源だ。

また、チームをまとめる田口舞主将(体専4年)は、守護神としても頼もしい存在。

OGで元全日本代表の山田永子コーチは「能力の高い選手がそろっているのだから、個人の力をうまく生かせれば、結果がついてくるはず」と、ハンドボールが盛んなノルウェーで指導法や強化システムを学んできた経験を生かし、後輩たちにアドバイスを送る。「もっともっとトップレベルの試合経験を積んで、ケガもなく、うまくチームがまとまってくれば」と山田コーチは勝利へ手応えを感じている。



山田永子コーチ

ハンドボールは身体接触がある激しいプレーで、ケガは付き物。監督やコーチは、選手たちの体調管理に厳しく目を光らせる。

「うちは練習場が屋外だから、雨天は練習できない。毎日限界までの練習

では体が悲鳴をあげてしまうから、思い切って雨天時は休みにした。その効果なのか、勝てるようになってきたんです」と、にんまり。思い切った指導法が選手たちのモチベーション向上につながった。

他チームは“打倒筑波”でかかってくる。

秋季リーグ、そしてインカレへ向け、選手たちは特別な思いで「何が何でも優勝を」と口を揃える。これまでチームを率いてきた水上監督が今年度で勇退するからだ。

水上監督のもとで、実力を開花させた選手は数多く、選手たちは「お世話になった監督への恩返し。何が何でも優勝で送り出したい」と結束する。



水上一監督

水上監督は「決勝につれていくまでが監督の仕事。決勝では、選手たちが実力を発揮してくれるはず」と選手たちへの信頼は厚い。

連覇へ。監督と選手が一丸となって、熱い闘志を燃やしている。



ハンドボール部 [記録・日程]

■春季リーグ戦

【男子】2位

優秀選手賞=木切倉真一(体専4年)、樋口睦(同)、久保侑生(同3年)

【女子】2位

優秀選手賞=田口舞(体専4年)、作内杏那(同3年)、山野由美子(同)

優秀新人賞=中西朋代(同2年)

■平成21年度秋季リーグ戦

8/29~9/27(予定)

バレーボール部 [記録・日程]

■春季関東大学バレーボール1部リーグ戦

【女子】2位

優秀選手賞、ベストスコアラー賞=皆本明日香(体専4年)

ブロック賞=樋口美紀(同)

レシーブ賞=中村早紀子(同)

リベロ賞=岩永麻里恵(同3年)

■平成21年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦

9月下旬~10月中旬(予定)

剣道部 [記録・日程]

■第55回関東学生剣道選手権大会

優勝 寺島 光紀(体専4年)、2位 西村 英久(同3年)

■第41回関東女子学生剣道選手権大会

優勝 鈴木 愛梨(体専4年)、3位 多和田麻由(同)

■第58回関東学生剣道優勝大会

9/13 日本武道館

柔道部 [記録・日程]

■フランスジュニア国際大会

【女子63kg級】優勝 山本小百合(体専1年)

【女子78kg級】2位 緒方亜香里(同)

■関東学生柔道優勝大会 【男子】優勝 【女子】優勝

■平成21年度全日本学生柔道体重別選手権

10/11~12 日本武道館

体操部 [記録・日程]

■世界ラート競技選手権大会

【団体戦】3位 日本代表チーム「江塚和哉(体専4年)、田村元延(同1年)」

【直転部門】3位 江塚和哉(体専4年) 【跳躍部門】3位 田村元延(同1年)

■2009年度ラート実技講習会

8/1、2、17、18、29、30 筑波大学総合体育館

硬式野球部 [記録・日程]

■首都大学春季リーグ 3位

首位打者・ベスト9=山本洋平(体専4年)

ベスト9=五十嵐大(同4年)、塩澤佑太(同3年)

■首都大学秋季リーグ

9月~10月(予定)

第4回 THK筑波放送協会

筑波大生の今を伝える



「THK筑波放送協会」(青柳悦子顧問)は、映像制作や音響、アナウンスなど放送に関する活動を手掛ける学内唯一の総合放送サークルだ。メンバーは文系、理系、芸術系など様々な分野から集まった46人。

主な活動は、学内開催の各種イベントの司会や、FMラジオのDJ、テレビ番組やドラマ制作、NHK全国大学放送コンテストへの参加など数多い。

メンバーはビデオカメラでの映像撮影やPCで映像編集を行う映像局、ラジオやマイクの音調整などを手掛ける音響局、DJや番組MCなど各発表の場でのアナウンスやナレーションを行うアナウンス局、学内各種イベント等スタッフとして会場や機材設営などを行うイベント局の4分野で構成されている。

しかし、「担当分野はあるけれど、それぞれの役割が固定しているわけではなく、基本的にやりたいことにチャレンジできるサークルです」と鈴木康右会長(理工学群物理学類3年)はメンバーの意欲を強調する。

機材設営や照明、ステージ幕操作などの裏方は、同会を支える重要な役割の1つで、基本的にイベント局は全員が担当。状況に応じてオールマイ

ティーに何でもこなさなければならない。

他サークルの発表会やイベントの記録撮影などの依頼も多く、他サークルからも頼られる存在だ。

活動の中核の1つが、つくば市のケーブルテレビACCSで放送している番組「P-CUBE」と、コミュニティFMラジオつくばの「TURN(Tsukuba University Radio Network)」の2つのメディア番組。

特に「P-CUBE」は企画から制作、撮影、編集、MCすべて本学生だけで作っている。内容は、学内や地域の情報、本



学サークルのイベント案内、取材やインタビュー、ドラマ、ドキュメンタリーなどバラエティー豊富な30分番組だ。

鈴木会長は「全国でも、テレビとラジオに番組を持っている大学放送サークルは珍しい。つくばは発表の場が多く、私たちにとって、とても恵まれた環境だと思う」と話す。

だからこそ、企画会議では制作者のやりたいこと、伝えたいことが次々と飛び出すという。「有り難いことに、この番組作りはいい意味で厳しい制約がないので、私たちが伝えたいありのままの思いが実現可能な魅力がある。もちろん視聴者やリスナーを意識してはいますけど」とやりがい話す鈴木会長。

番組作りは締め切りが近付くと、映像担当は編集作業に追われる。腕の見せ所だが、編集機材トラブルや編集室の使用時間など作業が思うように進まずに頭を抱えることも多いとか。それでも「疲労感はあるけれど、終わってみれば達成感のほう大きい」と目を輝かせる。

また、日ごろの鍛錬の成果発表として例年「NHK全国大学放送コンテスト」に参加している。2004年には「朗読」「ニュース」「映像」の3部門で大会史上初の3冠を獲



得し、全国から注目される存在となった。昨年は音声CM部門で2作品が1位と2位を受賞、会員の努力が実を結んだ。

鈴木会長は「学生にしかできないことや、与えられたチャンスを生かし、楽しみながら技術を磨いていきたい。私たちの活動に注目してほしい」と意気込みを話す。

これからも会員一丸となって新しい企画にチャレンジしていきたい考えだ。

- ◇ 「P-CUBE」つくばケーブルテレビACCS 9ch(地上デジタル11ch) 毎月第1月～日曜、午後9時半～同10時
- ◇ 「TURN」コミュニティFMラジオつくば 84.2MHz 毎週第2、4金曜、午後9時半～同10時 生放送
- ◇ 「公開生ラジオ『P-WAVE+』」※不定期だが、学内の松見池ステージで昼休みに学生の生の声を届けている

このコーナーでは、課外活動として、演奏会や展覧会、各種発表会、またボランティア活動などで、その腕前を披露している、文化系・芸術系サークルの催しを紹介します。

【筑波大学芸術系サークル連合会】 ホームページ <http://www.stb.tsukuba.ac.jp/~geisa/>

【筑波大学文化系サークル連合会】 ホームページ <http://www.sakura.cc.tsukuba.ac.jp/~bunsa/>

つくばフォーク村

8/29 サマフェス

つくば鳥人間の会

7/20(7/26) 翡翠(かわせみ)総試験運転

ときめき太鼓塾

7/26 松塚夏祭り

8/7 地域祭り [場所] 積水化成品関東工場

8/25 地域祭り [場所] 三菱化学

歌留多部

8/29 第77回全国かるた競技学生選手権大会

8/30 第92回全国職域学生かるた大会

[場所] 江戸川区スポーツセンター

東京オリンピック・パラリンピック招致委員会と連携協定締結



2009年6月9日、東京都庁第一本庁舎(新宿区)において、東京オリンピック・パラリンピック招致委員会と連携協定を締結しました。

この協定は、筑波大学と招致委員会が相互に連携・協力し、「人間教育と国際交流を通じて世界平和に貢献」するための教育や研究活動を行うことにより、オリンピック・ムーブメントを広く振興させるためのもので、締結式には山田信博学長、鈴木久敏副学長、日本人最多の金メダル保持者の加藤澤男教授(人間総合科学研究科)、柔道女子金メダリストの谷本歩実選手ら本学関係者と招致委員会から計17人が参加しました。

筑波大学は、これまでも歴史的に日本の体育・スポーツを支えてきておりますが、これを契機として一層の貢献が期待されます。

来訪者〈海外〉

4月22日(水)
副学長表敬



来訪者：中国
佛山科学技術学院校董会主席・
共産党委員会書記一行
目的：相互交流を継続するためのルール作りと学生、教員の研修派遣に関する政策等についての意見交換

5月22日(金)
学長表敬及び調印



来訪者：ロシア
モスクワ市立教育大学長一行
目的：本学と学術交流及び協力に関する協定を調印するため

6月8日(月)
学長表敬



来訪者：カザフスタン共和国
特命全権大使一行
目的：本学中央アジア国際連携センターで開催する「世界経済危機とカザフスタン」の講師等

ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻が 経営専門職大学院の認証評価基準に適合



2005年に東京キャンパスに設置された国際経営プロフェッショナル専攻(以下MBA-IB)は、働く社会人を対象とし、全科目を英語で講義する夜間開講の国際ビジネススクールである。2008年度の専任教員の4割は外国籍で、出身は6カ国(インド、英国、米国、仏国、独国、中国)にわたる。また、学生の出身地域は4大陸(北米、南米、アジア、豪州)15カ国に上る。その他、毎年、世界各国の有力ビジネススクールから十数人の外国人客員教員を招聘し、各国経営方式や専門性の高い講義を提供するほか、グルノーブル経営大学院(仏国)、インドネシア国立大学等の間を国際遠隔通信で結び、同時双方向による討論型授業を取り入れ、国際的かつ最先端の国際ビジネス教育を提供している。今年度から、MBA-IBでは全学に先駆け、eラーニングシステムであるMoodleを専攻標準として全面的に採用するなど、国際ビジネス教育のフロントランナーとしての使命に挑戦し続けている。

MBA-IBは、高度専門職業人の育成を目指す専門職大学院であり、学校教育法第109条第3項及び学校教育法施行令第40条の規定により5年ごとに、外部認証評価機関により、教育課程、教員組織その他教育研究活動の状況について評価を受けることが義務付け

られている。今回、プログラム整備が進んだことから、国内他3校(青山学院大学、神戸大学、一ツ橋大学)のビジネススクールと共に、ABEST21 (THE ALLIANCE ON BUSINESS EDUCATION AND SCHOLARSHIP FOR TOMORROW, a 21st century organization)による認証評価を申請し、受審したものである。本認証プロセスは、第一段階「評価申請の受理審査」、第二段階「18基本視点に基づく自己点検評価」、第三段階「81細項目視点による自己点検評価」、第四段階「5人の外部委員による現地調査」から構成され、約1年半にわたる審査期間を要し、最終的に提出した自己点検報告書は132頁に及ぶ。

認証評価審査の結果、MBA-IBはABEST21が定める認証評価基準に適合し、「教育研究の方策は、評価基準が大体において満たされ、教育研究の質維持向上の保証が期待でき、優れている」と認定された。とくに、MBA-IBの「グローバル・ハイブリット型実践学習(Global Hybrid-Action Learning)」は特筆すべき優れた教育プログラムとして評価できる」との講評を得た。「グローバル・ハイブリット型実践学習」とは、日本的経営の強みである「組織力」と「技術力」をベースとして、世界各国の「経営システム」、「異文化対応」を融合した実践的学習である。

■平成21年度科学技術分野文部科学大臣表彰を受賞

文部科学省では、科学技術に関する研究開発、理解増進において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、もって我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的とする科学技術分野の文部科学大臣表彰を定めておりますが、このほど、本学関係者6人が平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者に選ばれました。



左から、村山(柳澤)明子講師, 渡邊和男教授, 菊池彰講師, 佐藤晃嗣講師

●科学技術賞理解増進部門

- 渡邊 和男教授(生命環境科学研究科 生命産業科学専攻)
- 菊池 彰講師(生命環境科学研究科 生命産業科学専攻)

業績名: 遺伝子組換え植物のリスク管理と研究開発の理解の普及啓発

- 坪内 孝司教授
(システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)

業績名: 著作活動を通じたロボット工学の理解増進



左から、佐藤晃嗣講師, 渡邊和男教授, 菊池彰講師, 長谷宗明准教授

●若手科学者賞

- 長谷宗明准教授(数理物質科学研究科 電子・物理工学専攻)

業績名: 超高速時間領域分光法の開発と格子ダイナミクス計測の研究

- 佐藤晃嗣講師(生命環境科学研究科 情報生物科学専攻)

業績名: ミトコンドリア病の解明・治療のための個体レベルの研究

- 村山(柳澤)明子講師
(生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)

業績名: 細胞内エネルギー代謝調節機構の研究



坪内孝司教授(右)と共同受賞の大隅久氏(中央大学教授:左)
米田完氏(千葉工業大学教授:中)

●主な受賞等一覧

受賞名	受賞者（所属・学年）	指導・研究室
平成21年度総務省戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE) 地域ICT進行型研究開発プログラムに採択	李昇姫准教授 (人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻) 岩本義輝准教授 (人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻) 浜中雅俊講師 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻)	_____
平成21年度総務省戦略的情報通信研究開発推進制度 (SCOPE) ICTイノベーション促進型研究開発プログラムに採択	加藤和彦教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)	_____
第52回日本手の外科学会学術集会会長賞	原友紀講師 (人間総合科学研究科、臨床医学系整形外科、保健管理センター 整形外科)	_____
Laval Virtual Awards 2009	星野聖教授 (システム情報工学研究科 知能機能システム専攻) 富田元将 (システム情報工学研究科 2年)	_____
2008 (平成20) 年度社団法人日本都市計画学会 石川賞	腰塚武志名誉教授	_____
2008 (平成20) 年度社団法人日本都市計画学会 論文賞	大澤義明教授 (システム情報工学研究科 社会システム・マネジメント専攻)	_____
2008年度 社団法人日本地震学会 若手学術奨励賞	八木勇治准教授 (生命環境科学研究科 地球進化科学専攻)	_____
第19回緑の環境デザイン賞緑化大賞	渡和由研究室「紡ぎの庭」検討会 (人間総合研究科: 渡和由准教授 芸術専門学群: 具志つや子・佐藤未来・鈴木彩乃 人間総合科学研究科芸術専攻: 桶川容子・富原和仁・趙智勲・吉田敏也 大学院OB: 小木野貴光) 財団法人筑波メディカルセンター	_____
ユネスコ創立60周年記念メダル	タダバエフ ティムール (DADABAEV Timur) 准教授 (人文社会科学研究科 国際日本研究専攻)	_____
第6回産学連携学会 学会賞 論文賞	新谷由紀子准教授 (産学リエゾン共同センター) 菊本虔名誉教授	_____
日本雑草学会第48回大会ベストポスター賞	峰崎達也 (生命環境科学研究科 生物資源科学専攻博士前期課程 2年)	松本宏教授 (生命環境科学研究科 生物機能科学専攻)
社団法人日本化学会第89春季年会 (2009) 学生講演賞	佐藤良太 (数理物質科学研究科 化学専攻博士後期課程 2年)	寺西利治教授 (数理物質科学研究科 化学専攻)
American Physiological Society (米国生理学会) Experimental Biology 2009 David S. Bruce Award Finalistに選出	小田切葵 (医学専門学群医学類 4年)	松下昌之助講師 (人間総合科学研究科 疾患制御医学専攻)
財団法人日本科学協会平成21年度笹川科学研究助成に採択	御田成頭 (生命環境科学研究科 国際地縁技術開発科学専攻 博士後期課程 3年)	増田美砂教授 (生命環境科学研究科 持続環境学専攻)
平成20年度社団法人電子情報通信学会パターン認識・メディア理解 (PRMU) 研究会研究奨励賞	北川景介 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻 博士前期課程 2年)	福井和広准教授 (システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻)
一般社団法人エネルギー・資源学会 第13回茅奨励賞	大島寛司 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻博士後期課程 1年)	内山洋司教授 (システム情報工学研究科 リスク工学専攻)

本学卒業後、さまざまな音楽コンクールで上位入賞し、NHK交響楽団、新星日本交響楽団を経て、現在、東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターとしてご活躍の三浦章広さん(人間学類・84年卒)に、プロの音楽家になるきっかけや学生時代のエピソード、本学へのメッセージなどを伺いました。

み うら あき ひろ 三浦 章広さん

東京フィルハーモニー交響楽団
コンサートマスター

向上心

—プロの音楽家でご活躍されていますが、音楽系専門分野がない本学に進学した理由をお聞かせ下さい

バイオリンは、クラシック好きの両親の勧めで4歳から始めましたが、高校では辞めていて、大学受験段階では、音楽家になろうとは全く思っていませんでした。教師だった両親の影響もあり、将来は教師も選択肢の1つで受験しましたが、何をやりたいのか漠然としていました。私は小・中学校は野球、高校ではテニスをやっていた体育会系人間で、もっと能力があれば体育専門学群に入りたかったくらいです。

—音楽家になろうと決めたきっかけは何ですか

今思うと、管弦楽団入団は運命の分かれ道でした。プランクはあったけれど、やっぱりバイオリンは好きだったし、でもテニスも続けたくて、どちらのサークルに入るか、すごく迷いました。管弦楽団に入り、指揮者の白川和治先生と出会って、私が持つクラシック音楽をやっている男性のイメージが変わりました。それまでは、私は体育系で、男で音楽家は自分の居場所じゃないと思っていたから。自分のサラリーマン姿もイメージがなく、とにかく何かのプロになりたかった。それなら得意のバイオリンで勝負しようと白川先生に相談すると「やってみなさい」と後押しして下さった。それで音楽の道に踏み出したんです。

—大学で特に印象に残っていることは何ですか

勉強嫌いだったので、サークル活動は楽しかった。私のコンサートマスターデビューは、筑波大学管弦楽団です。当時はまだ創成期で小規模でしたが、私の最後の演奏会で、チャイコフスキーの「悲愴」に挑戦しました。初心者もいるし、難しいから無理だという意見もありましたが、挑戦しました。結果、こんなにうまくいった？と驚くほどの感動と一体感を味わいました。今でも忘れられません。あの時の感動が、私を奮い立たせてくれる活力源。プロ活動でも滅多に経験できませんね。今もあの感動を目指しています。

—卒業後、NHK交響楽団(以下N響)に入団されましたが、どのような経緯だったのでしょうか

プロを考え始めた大学2年の時、筑波大を辞め音大へ入り直すつもりでした。芸大や音大の音楽仲間から当時N響のコンサートマスターの徳永二男先生を紹介してもらい、成人式の日に初めて先生の門をたたきました。徳永先生は「入り直す時間は無駄。きちんと卒業しなさい」と言ってくれて、それから卒業まで、毎週のように東京ヘレッシンに通いました。弓の持ち方や音階、全部基礎からやり直します。そうしないとプロでは絶対通用しないのは自分が一番わかっていたので、夢中でした。大学4年の時に受けた「日本音楽コンクール」で、120人中の20~30人に残り、それである程度、周りから認められるようになり、N響

のエキストラに呼ばれ、初めてプロと演奏しました。卒業後もエキストラでN響にいましたが、休団して再度コンクールに挑戦し、入賞しました。そのころから本格的に就職を考え、歴史的にも伝統的にも優れているN響は、プロ経験のない私の勉強にもなるとオーディションを受けました。オーケストラは定期的な新規採用はなく、いつオーディションがあるかわからない世界で、バイオリン2人枠に9人の激戦でした。

—数々のコンクールで入賞されていますね

中でも、30歳の時「第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール」(スイス)で最高位(1位空位の2位)を取れたのは、かなり自信になりました。みんな10代から受け、若い方が将来性もあり有利です。きちんとした道を通ってきた音楽家たちと違い、プロを志したのが遅い私の演奏が認められました。ようやく音楽家の階段を上ってきたと力がわいてきましたね。

—本学で培ったことで、役立っていることは

心理学や教育学を学びながら音楽をやってきたことは、音大出身者の多いこの世界の中で、人間関係のバランスを持たたと思います。強いライバル心もなく、色々なことを偏見なく感じ言える。コンサートマスターは人よりうまいだけではなく、人をまとめる力も必要ですから。

—コンサートマスターの役割とは？

オーケストラは一般的に指揮者がいて、演奏者が70～80人います。コンサートマスターは第一バイオリン首席奏者です。オーケストラの中でも指揮者の一番近くにいる人で、ほとんどの曲でイニシアチブをとり、弾く箇所も多い。演奏者はもちろん指揮者を見て演奏しますが、指揮者は音を出しませんから、音を出すタイミングや強弱、ニュアンスなどはコンサートマスターから判断します。

みんなの士気を高めたり、逆に落ち着かせたりも。何も指示を出さないと、演奏もまとまらずバラバラになります。1つの音を作り上げるため、瞬時に指示を出す。そういう判断やまとめる力が必要とされるポジションです。

—聴衆へ、オーケストラの聴き方や見どころなどを教えてください

音楽は音の世界、一番大事なものは感覚です。理屈ではないから、身構える必要はありません。演奏会は生で、その場の空気や雰囲気、同じ空間を共有し共感できる。私たちもお客さんの反応や期待に応える演奏をしなければいけない。会場で演奏者たちの表情や一体感を味わう。そんな醍醐味を感じながら見てほしいです。

—現代社会において、音楽家に求められていることは何だと思われますか

すさんだ時代だからこそ、心に響かせ伝えること。音楽は理屈じゃなく、心で感じるものです。私たちは技術だけではなく、人々の心に届くような演奏をしなければならぬと思っています。

—今後の夢や目標を教えてください

バイオリン演奏は運動性が少なからずあり、ある程度の体力も必要ですが、向上心を持っていれば、経験を積みいつまでも続けられる。私はこの世界では人よりも遅いスタートでしたが、こうしてコンサートマスターをやっている。今でも毎日が発見の連続ですし、いろんなことを吸収しています。これからも向上心を持ち、もっと上を目指したいと思っています。

—最後に筑波大学、学生にメッセージをお願いします

1度の人生なのだから、何事も悔いのないようにチャレンジし続けてほしいですね。諦めたら、そこで終わりですから。



写真提供：東京フィルハーモニー交響楽団

プロフィール 1961年 大阪府生まれ
1984年 筑波大学第二学群人間学類卒業
NHK交響楽団団員、新星日本交響楽団コンサートマスターを経て、
現在、東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター。
第53回日本音楽コンクール入選、第21回東京国際音楽コンクール弦楽四重奏部門において斎藤秀雄賞受賞、
第25回ティボール・ヴァルガ国際ヴァイオリンコンクール第2位入賞(第1位空位)等

リレー エッセイ

人間総合科学研究科
疾患制御医学専攻（産婦人科学）
准教授

沖 明典さん



学生時代は洋蘭の栽培に夢中だった。よく授業をサボり洋蘭栽培農家に足繁く通っていた。医者になれなかったら、洋蘭栽培農家にでもなろうかと思ったこともあった。産婦人科に入局し、先輩に蘭をプレゼントした。彼は魅入られて熱中した。そして、蘭を育てる時間を作るためと言い残して、開業（継承）する道を選び、大学講師を辞した。そのあとを引き継ぐように教職に就いたが、産婦人科不足による多忙のおかげで（言い訳）、蘭の鉢数は激減中。ふと気がつくと、彼は2年連続で東京ドームの蘭展で大賞を獲得した。彼の名は斉藤正博先生。嬉しくもあり寂しい様なアンビバレントな気持ちで、オフィスに洋蘭を持ち込んで今日この頃である。

今回は附属病院看護部長の白川洋子さんです。
「彼女とは僕が医師になって初めて働いた病棟で出会いました。年上で頼りがいがあるのですが、気さくで天然ボケキャラの一面もあります。今や雲の上の方ですが」

体育芸術系支援室
山田 涼子さん



「うしく河童鳴子会」で8年前に娘と始めた「よさこい鳴子踊り」が私のストレス解消法です。「うしくかっぱ祭り」、「まつりつくば」、「東京よさこい」と同世代の仲間と練り歩く爽快感に浸っています。実は今、腰痛でドクターストップ中ですが、リハビリ頑張って復帰します。今年は娘と息子が一度に家を離れ、ちょっと寂しい春でしたが、自分の時間ができたので今度は茶道・華道・書道・観劇もいかなあと欲張りになっています。美味しい物好きの主人と一緒に旅行もしたいのですが、二人分の教育費の残りでは近場の温泉が精一杯（*^_^*）。それでも健康に感謝して、楽しく前向きに参りましょう。

今回は、監査室の阿内敦子さんです。
「人の繋がりがって不思議ですよ。十人十色、人生いろいろ、古くからのご縁です。先輩よろしくお願ひします」

附属坂戸高等学校
教諭

平田 佳弘さん



私は、まず大塚特別支援学校に勤務し、私にこのエッセイを回して頂いた神田先生の元で、障害児教育を学ぶことができ、本当に感謝しております。私は幼少の頃から剣道を続けていて、学生の頃はインターハイや全日本学生の大会で活躍もし、普通以上のことを目標にしておりましたが、特別支援学校で普通にできることのすばらしさを学びました。その経験は現在の健常児の学校での指導にも本当に役に立っています。突然ですが、私は、昨年12月に結婚したばかりです。神田先生に夫婦円満の秘訣を聞きながら幸せな家庭を築きたいと思っています。

今回は、附属高校教諭（国語科）の菱沼聖子さんです。
「筑波大学常盤台宿舎で、同じR B棟に住んでいます。平田がR B棟管理人の時、菱沼先生が入居されました。以来飲み仲間です」

医学系支援室
宮川 牧子さん



最近嬉しかったこと：田舎の家のそばを流れる小川縁で2匹の蛍を見たこと。物知りの友人によると源氏蛍らしい。その夜、眩い月の光に誘われて果樹園から小川にかけて散策していると、目の前を横切るものがあつた。ほたる!? …その小川には遙か昔、蜷やザリガニなどがいて、楽しい遊び場のひとつであつた。以前より水量が減り、野生の燕子花（カキツバタ）や草木が繁茂して、水面は殆ど見えない状態なのに、幼虫の食糧となるカワニナなんて居るのかしら？物思へば沢の蛍もわが身より…しばしの幽玄の世界から戻ると、デスクには明日までのレポート。。。お腹を出して爆睡している2カ月前からの我が家の居候。いい宵だね。

今回は、医学系支援室の榊山綾子さんです。
「物知りの友人。お仕事はコンピューターのお医者さん。天文から音楽までは雑草まで何でも知っているスーパーレディ」

システム情報工学研究科
社会システム・マネジメント専攻
教授

松田 紀之さん



この駅伝エッセイの前走者が残したメッセージは、
"自転車は健康によい"と"カフェ巡りなど余得もあります"
でした。自転車もよいけど、散歩はもっと手軽です。
幸い学内には緑がたくさん残されています。特に植物見本園や虹の広場、農林技術センターを抱えた北地区は、変化にも富んでいます。のんびりを基調に、たまに甲野善紀師が説くナンパ歩きを交えてみます(実はムツカシイ)。時には静止状態から片足をあげて、正面から側方に、そして後方へと回します。ゆっくり呼吸しながらバランスよくがコツ。もちろん辛抱強く。一息ついたら、桜の小枝を拾います。BBQのときに火にくべると簡易薫製となります。これが余得の妙味。では、お試しあれ。

今回は、人文社会科学研究科 現代語・現代文化専攻長の川那部保明さんです。
「詩を愛する川那部先生は古武道の心得もあります。達人の域に達しておられるは是非手ほどきのほどお願いしたい処です」

人間総合科学研究科
生命システム医学専攻 (産業医)
講師

笹原 信一郎さん



学生結婚から14年が経ち、昨年より大家族で暮らすことになりました。うちは代々男性の寿命が短く、祖父も曾祖父も50代で亡くなっています。そんな私も学生結婚はじめ「人生そんなに急いで頑張らなくても」と言われながら、ただがむしゃらに頑張ってきた。

ところが、4年前に娘が突然意識不明の病気になり、これをご縁に仏教を学び行じることで、生き急ぐ人生を少しずつ変えることが出来つつあります。仕事が忙しくなるといついつ“心を忘れがち”になりますが、がむしゃらに頑張るだけではなく、頑張ったあとは少し休んで気持ちをリセットしながら、今も仕事と子育てに奮闘中です！

今回は、生命環境研究科 生物圏資源科学専攻助教の阿部淳一・ピーターさんです。
「仕事を離れ、子育てなど共に学ばせて頂いています」

総務部人事課

植田 尚美さん



フルートを始めて約20年になります。
難曲を楽しそうに吹きこなすフルート奏者に憧れて、という子どもじみた動機でしたが、幸い学生オーケストラに入れたこともあり、意外にも長い付き合いとなりました。

この楽器、エレガントなイメージを持たれがちですが、実はかなり体力が要求されます。加齢や不摂生で衰えた筋力と根性を嘆きつつ、週末など空いた時間に好きな曲を吹いて楽しんでいます。願わくは、一人ではなく、何人かで一緒に演奏を楽しめれば嬉しいですね。

今回は、アドミッションセンター准教授の本多正尚さんです。
「本多先生は、高校のクラスメートです。まさかここで再会するとは思いませんでした」

附属聴覚特別支援学校

林 朋美さん



家庭の事情で大船に引っ越すことにしました。目下お部屋探し中です。実は趣味と言ってもいいくらい間取り図を見るのが大好きなので、毎晩ネットでの不動産情報チェックに燃えています。週末は現地リサーチのため大船近辺をうろろろしています。大船駅前の商店街は物価が安くてドラッグストア激戦区、かつ女性に嬉しい美容室激戦区で、住み心地はばっちりのようです。休日は鎌倉散策に、横浜でお買い物・・・と、夢はふくらむのですが、肝心の物件がなかなか見つからず・・・当分、不動産屋めぐりは続きそうです。

今回は、附属学校教育局学校支援課の木城みゆきさんです。
「木城さんはシス情支援室でお世話になった先輩です。とっても素敵なお姉様です！」

本学関係の主な新聞記事掲載一覧(4月～6月)

	記事	掲載本学関係者	掲載紙名
1	本学と北海道大、教育関連で協力協定締結		日経(4/1)
2	「つくば市環境都市推進委員会」が行動計画案を策定 つくば市長に提出	田中敏副学長、同委員長	東京(4/1)
3	山田信博・新本学長が抱負	山田信博学長	読売(4/2)日経(4/2)産経(4/2) 茨城(4/2)
4	▽ひと:本学長に就任・山田信博 世界的な教育拠点へ	山田信博学長	茨城(4/6)
5	▽大学発ベンチャー:ロボットスーツ 自前で量産	山海嘉之教授 (システム情報工学研究科、サイバーダイネCEO)	ビジネスアイ(4/6)
6	本学と県農業協同連合会が水戸協同病院内に「筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター」を設置	渡邊重行教授 (人間総合科学研究科、同センター長)	日刊工業(4/6)
7	▽融合する科学と芸術⑩ 未来カーで未知の世界へ	岩田洋夫教授(システム情報工学科)	日経(4/7)
8	本学で入学式 2450人が大学生生活スタート	山田信博学長 戸定亮(文学類) 混声合唱団 沖崎友香(芸術専門学群)	読売(4/8)茨城(4/8)常陽(4/8)
9	本学の研究グループが世界初のタマムシ色のプラスチックを開発 ドイツ科学誌に掲載も	後藤博正講師(数理工学系)	読売(4/9)日経産業(4/9) 日刊工業(4/30)
10	第35回川端康成文学賞に青山七恵さんの「かけら」	青山七恵(図書館情報専門学群OB)	朝日(4/9)読売(4/10)日経(4/10) 常陽(4/10)
11	本学の研究チームが調査発表 メタボ女性に減量目標8～13%で改善	中田由夫助教(人間総合科学研究科) 田中喜代次教授(人間総合科学研究科)	朝日(4/17)読売(4/16)毎日(4/24) 日経(4/16)産経(4/15)東京(4/16) 茨城(4/16)常陽(4/16) 日刊工業(4/16)日経産業(4/16)
12	▽交遊抄:山田信博 父が紡いだ縁	山田信博学長	日経(4/16)
13	本学オリジナルの純米吟醸酒「桐の華」 5/8に発売	内山裕夫教授(生命環境科学研究科) 安ヶ平良人(大学院修士課程2年) 山田信博学長 菅野智明准教授(人間総合科学研究科) 田中佐代子准教授(人間総合科学研究科)	朝日(4/24)毎日(4/24)読売(4/24) 日経(4/24)茨城(4/25)常陽(4/24) 東京(5/6)
14	▽多士彩々:田中喜代次(本学教授) 運動指導 中高年元気に	田中喜代次教授(人間総合科学研究科)	日経(4/24)
15	▽ラボラボ探偵団:藻から石油 本学研究Gが光合成で炭水素	渡邊信教授(生命環境科学研究科) 白岩善博教授(生命環境科学研究科)	朝日(5/8)
16	本学講師が立体折り紙簡単設計ツールを開発 展開図・3次元モデル表示	三谷純講師(システム情報工学研究科)	日刊工業(5/8)
17	本学教授や学生OBらの絵画グループ「臈月会」が5/24まで牛久で作品展	臈月会 藤田志朗教授(人間総合科学研究科) 太田圭准教授(人間総合科学研究科) 程塚敏明准教授(人間総合科学研究科) 大学院修士課程芸術研究科芸術専攻 日本画分野OB 太田泰助・安達友紀・山内廉	常陽(5/14)読売(5/17)
18	50歳体力は死亡率の指標 本学研究チームが発表	曾根博仁教授(人間総合科学研究科) 児玉暁研究員	毎日(5/21)
19	本学と横浜市立大の研究グループがインフルウイルスのタンパク質構造を解明 酵素標的に新薬も	永田恭介教授(人間総合科学研究科)	朝日(5/21)毎日(5/22)産経(5/22) 日経(5/22)茨城(5/22)常陽(5/22) 日刊工業(5/22)日経産業(5/22)
20	本学研究グループが眼の検査装置 製品化に成功	数理工学系 人間総合科学研究科	茨城(5/22)
21	蓮見孝教授が方法論まとめ出版 地域再生の実践例紹介	蓮見孝教授(人間総合科学研究科)	茨城(5/22)
22	本学研究グループらが開発 水を吸う「石豆」、納豆などの加工容易に	乙部和紀准教授(生命環境科学研究科)	読売(5/23)東京(5/25)
23	第88回関東学生陸上対校選手権 本学が男女ともに優勝 男子=22年ぶり12回目、女子=17年連続19回目	安孫子充裕【100m、200m優勝】 佐藤・安孫子・田中・石塚【男子1600mリレー優勝】 高橋亜弓【円盤投げ優勝】 竹原史恵【七種競技優勝】 中野・岡部・佐野・立山 【女子400mリレー優勝※大会新記録】	読売(5/24、5/25)毎日(5/25) 茨城(5/25)
24	第19回緑のデザイン賞の緑化大賞に、 本学・渡研究室の「紡ぎの庭」検討会が受賞	渡和由准教授(人間総合科学研究科) 横山富美子(つくばアーバンガーデニングチーフ・デザイナー)	産経(5/26)常陽(5/15、5/26)
25	▽ラボラボ探偵団:筑波山気象観測ステーション 無人拠点はデータの宝庫	林陽生教授(生命環境科学研究科)	朝日(5/29)
26	7月12～19、本学などを会場に日本初開催の国際生物五輪、 57カ国・地域から高校生240人が集う		常陽(5/29)
27	東京五輪招致委が本学と連携協定へ 9日に締結式	山田信博学長 河野一郎教授(人間総合科学研究科) 加藤澤男教授(人間総合科学研究科) 山口香准教授(人間総合科学研究科) 谷本歩実(柔道部OB)	読売(6/4)産経(6/4)東京(6/4)
28	国際生物五輪開催記念し、県産食材で「全国高校生レシビコンテスト」 金賞の「茨城彩々」は来月の国際生物五輪パーティーで各国代表に提供		毎日(6/8)読売(6/8)産経(6/8) 東京(6/8)茨城(6/8)常陽(6/8)
29	附属盲学校小学部出身の全盲ピアニスト・辻井信行さん、 国際コンクールで優勝		朝日(6/8)毎日(6/8、6/9)産経(6/9)
30	本学の塩水で育つユウカリ、アフリカの緑化活用に G8財務相会合で与謝野大臣が技術移転支援表明	渡邊和男教授(生命環境科学研究科)	朝日(6/16)毎日(6/16)読売(6/17) 産経(6/16)日経(6/16)東京(6/16) 茨城(6/16、6/22)常陽(6/16) 日刊工業(6/19)
31	本学教授ら「免疫ブレーキ」解明 ワクチン増強応用も	澁谷彰教授(人間総合科学研究科) 本多伸一郎講師(人間総合科学研究科)	毎日(6/16)日経(6/16) 日経産業(6/16)
32	本学と産総研、物材機構が連携 「つくばナノテクノロジー拠点運営最高会議」を設置	山田信博学長	読売(6/18)茨城(6/18)常陽(6/19) 日刊工業(6/18)日経産業(6/18)

イベントカレンダー(7月～9月)

7月

- 2日(木) 夏季休業(～8/31)
- 6日(月) 大学院入試「推薦」
- 8日(水) 入学試験「編入学・2学期」
- 9日(木) 入学試験「編入学」
- 10日(金) 日本行動分析学会第27回年次大会(～12日)
- 12日(日) 第20回国際生物学オリンピック(～19日)
法曹専攻(法科大学院)オープンキャンパス
- 15日(水) 合格発表「編入学・2学期」
- 24日(金) 第1学期末卒業式・大学院学位記授与式
- 25日(土) 人間総合科学研究科スポーツ健康システム・マネジメント専攻推薦入試
ビジネス科学研究科国際経営プロフェッショナル専攻修了式
夏休み自由研究お助け隊2009(～26日)
- 27日(月) 2009年度筑波大・北大共催シンポジウム(筑波開催～28日)
BSリーグ下田臨海実習(下田開催～30日)
- 28日(火) 大学説明会(～30日)
平成21年度学校図書館司書教諭講習(～8/12)
- 30日(木) 物理学類体験学習



8月

- 2日(日) 物理チャレンジ2009「第2チャレンジ」(～5日)
- 3日(月) 入学試験「編入学(国)」(～4日)
高校生公開講座「海洋生物学入門」(下田開催～6日)
- 5日(水) ゴーゴーバイオマス2009 in Tsukuba
- 6日(木) 数学類体験学習
一日体験化学教室
- 7日(金) 第2学期入学式
- 8日(土) つくば3Eフォーラム
- 10日(月) 合格発表「編入学(国)」
- 18日(火) 大学院入試「8月期」(～21日)
- 22日(土) 人間総合科学研究科 生涯発達専攻及び
スポーツ健康システム・マネジメント専攻入試(～23日)

9月

- 1日(火) 第2学期授業開始
- 6日(日) ビジネス科学研究科企業科学専攻入試
- 13日(日) ビジネス科学研究科企業法学専攻入試
- 16日(水) 日本語・日本文化研修留学生修了式
- 27日(日) つくば市防災訓練(第3ゲート駐車場)





総合交流会館

University of Tsukuba 30th Anniversary Hall

2003年の本学開学30周年(創基131年)を記念し、本学のさらなる発展を果たすために、「人」と「情報」の交流拠点として寄付事業により建設されました。

国際交流、国内交流、地域交流、同窓交流、学内交流という5つの交流に資するため、大学会館とその周辺の既存施設や環境も取り込みながら、大学と社会とを結ぶ表玄関となる魅力的なゾーン形成を目指しています。



Tsukuba
Communications

